



俳句ゆめクラブ会報

2022年4月30日

第 143 号

雨上がりまぶしさを増し柿若葉

宮島昭夫

(今、柿若葉がとても美しい時期ですね)

チューリップ喜色溢れてをりにけり

八千代幸男

(喜びの色は喜色としたいです)

露天湯に落花ひとひらいとほしむ

鈴木幸恵

(花吹雪は不要、露天は露天湯にすべきです)

春惜しむ閉店告げる洗濯屋

浅見法子

(洗濯屋の閉店と同時に春も惜しんでいるのですね)

菜の花の未だ明るく暮れなづむ

小林健一郎

(菜の花が明るいのでなかなか暮れてゆかないのですね)

今散りし落花の浪となりけり

岩松忠子

(今散ったばかりの落花が川浪の中を流れての一句です)

です

《入選》

川の水もつれ合ひては草芽ぐむ

大井昭子

漆塗りしごととき艶なり柿若葉

岡田時雄

北限の海難事故や春惜しむ

小林健一郎

新緑の山柔らかくいざなへり

鈴木幸恵

理不尽な戦ひ続く散椿

八千代幸男

花吹雪天地のかくも明るくて

長澤輝子

満天星の鈴を鳴らせる風遊ぶ

瀬戸川公子

広き葉の広がれる空朴の花

岩松忠子

犬ふぐり天真爛漫空広し

瀬戸川公子

春の日に魚影きらりと橋の下

小林健一郎

遊歩道散るものあまた春惜しむ

八千代幸男

山肌の日毎濃くなり緑立つ

長澤輝子

趣味仲間退会一人春惜しむ

岡田時雄

緑濃くなりゆく山や四月尽

鈴木幸恵

音もまた煌めく川面春惜しむ

吉澤愛子

山々は鋭さうすれ春惜しむ

大井昭子

恋猫の声なほ止まぬ闇夜かな

浅見法子

久方に掛軸変へて春惜しむ

宮島昭夫

桜薬降る風やんはりと雨さそふ

大井昭子

山菜のほど良き苦み春惜しむ

長澤輝子

来し方を思ひ出しつつ春惜しむ

瀬戸川公子

雨となり一入重き八重牡丹

浅見法子

互選

丸まる背二人並んで春惜しむ (3票)

岩松忠子

フリスビーキャッチする犬風光る (3票)

吉澤愛子

春惜しむチェロの調べに目を閉ちて (5票)

梅田ひろし

山肌や日毎移りて緑立つ (4票)

長澤輝子

行く水の煌めく川面春惜しむ (3票)

吉澤愛子

山菜のほど良き苦み春惜しむ (4票)

長澤輝子

濁世とは思へぬ白さ花水木 (5票)

梅田ひろし

暮れなずむ菜の花未だ明かるけり (3票)

小林健一郎

風吹かば散り敷く花は浪となる (3票)

岩松忠子

〔 決定事項・連絡事項 〕

・次回吟行 5月24日(火)

古河公方公園

宇都宮線・古川駅(駅前子育て広場前)に8時45分集合

句会 管理棟展示室 13時より

・その他岡田幹事の要領書に詳細あり

(小林健一郎記) (了)

梅田先生の句

春惜しむチェロの調べに目を閉ちて

濁世とは思へぬ白さ花水木

ほほえみを絶やさぬ羅漢桜散る

梅田先生選

《特選》

丸まる背二人並んで春惜しむ

岩松忠子

(年寄り二人を丸まる背と詠んだところがよい)

フリスビーキャッチする犬風光る

吉澤愛子

(風光るとフリスビーの組み合わせがよい)

去年の巢軒に探せる初燕

宮島昭夫

(毎年同じ所へ来る燕の習性を詠んだところがよい)

春爛漫佐々木朗希のパーフェクト

岡田時雄

(日本中を沸かせた完全試合でした)

落花なる真つ只中を歩みをり

吉澤愛子

(絢爛は要らないと思います)